



病院長メッセージ

病院機能評価(Ver.6)の 受審に向けて

病院長 | 太城 力良

兵 庫医科大学病院は、平成17年12月19日より日本医療機能評価機構の基準(病院機能評価Ver.4)を達成している病院になりました。病院機能評価の認定期間は5年間であり、再受審しないと来年12月以降は全国2,556の認定病院(平成21年8月現在)から外れてしまいます。病院部長会で再受審することを決定し、再受審には1年の準備が必要であるため、チームを編成し、総括責任者には病院長が、副責任者には前回は責任者として指導力を発揮された谷澤隆邦小児科診療部長が当たることになりました。

受 審は、以下のような項目をチェックすることで多くのメリットがあります。たとえ準備に余分な時間がかかっても病院の改善につながります。認定に向けてのご協力、ご指導を、病院職員だけでなく兵庫医科大学の構成員全員にお願いします。特に、教職員・学生の敷地内禁煙の厳守をお願いいたします。前回と同様に、準備過程で組織の団結力が強まり、認定後の原動力になることを願っています。

病院機能評価項目

- 第1領域「病院組織の運営と地域における役割」:基本方針と計画的な運営や管理体制、情報管理機能、地域における役割と連携、健康増進活動と地球環境への配慮、継続的な質の改善活動など。
- 第2領域「患者の権利と医療の質および安全の確保」:患者との診療情報共有と診療への参加促進、医療安全体制、チーム医療の推進と診療の質の向上など。
- 第3領域「療養環境と患者サービス」:院内案内機能、患者・家族の医療相談の体制やプライバシー確保、療養環境の整備など。
- 第4領域「医療提供の組織と運営」:診療、看護、コメディカル、手術・麻酔、救急、診療録管理や外来などの組織運営を「体制の整備」「機能の発揮」「質の改善」等の面から評価。
- 第5領域「医療の質と安全のためのケアプロセス」:医療の方針と責任体制、診療の計画的対応、適切なケアサービスの実施、ケアの実施、感染対策、カルテ記録、病棟での薬剤・機器の管理。
- 第6領域「病院運営管理の合理性」:人事・労務管理、財務・経営管理、施設・設備管理等の適切性、病院の危機管理への対応等。
- 第7領域「精神科に特有な病院機能」:精神科に特有でかつ重要な機能を評価。

受審の効果

- 現状の客観的把握:病院機能についての体系的な審査により、優れている点や改善すべき問題点が評点と評価所見により具体的に示されますので、病院の現状を客観的に把握することができます。
- 改善のきっかけづくり:受審申込み後に開始される書面審査の調査票を作成し、自己評価等により訪問審査に向けた準備が、医療の質の向上と効果的なサービスの改善につながります。
- 効果的で具体的な改善目標の設定:評価を受けることにより効果の上がる具体的な改善目標を設定することが可能となります。
- 職員の自覚と改善意欲の醸成:第三者から指摘されることにより、問題点について共通した認識を持つことができ、管理者も各部門の現場も改善意欲が向上して主体的な取り組みが期待できます。
- 改善の方向の明示:審査結果報告書には問題点が指摘されるとともに、その改善の方向も示されています。
- 認定証による患者さんの信頼:認定証を院内に掲示することにより、患者さんからの信頼を向上させることができます。

臨床検査技師、診療放射線技師合同の 接遇研修会 実施

8月31日、9月1日の2回に分けて、120名の技師が参加する研修会を実施しました。ある調査データでは、患者さんが病院を選ぶ基準の上位項目が10年前は「家から近い」「交通が便利」「医療設備が良い」「医療技術が高い」であったのに対し、近年では「医師の対応や説明」「近所や家族・仲間の評判」「看護師・職員の対応」が上位を占めており、接遇の重要性がますます高くなってきています。

このような状況変化の中、患者さんと接する限られた時間の中で、第一印象を良くし、安心感・満足感・納得感を伝えられるようにするためにはどのようにすれば良いか、参加者相互で考え、実践的演習を行いました。接遇の基本を再確認し、真剣にかつ楽しく和やかに取り組み、充実した研修会となりました。



笑顔のつくり方を参加者相互で学びました

緩和ケア研修会 実施

9月26、27日、兵庫医科大学病院において、医師を対象とした緩和ケア研修会が開かれました。この研修会は、がん対策推進基本計画が目標に掲げているすべてのがん診療に携わる医師が、緩和ケアについての基本的な知識を習得することを目的とし、全国のがん拠点病院で行われるもので、院内医師15名、他病院医師7名が参加しました。

研修会の内容は、講義や実習を取り入れた実践的なプログラムとなっており、ワークショップでは各グループにわかれて事例検討やロールプレイが行われました。一方的な講義とは異なり、皆さんが熱心に取り組まれ実りあるものとなりました。来年度以降も研修会を開催する予定となっておりますので、ご参加のほどよろしくお願ひします。



入院中の子どもたちが人形劇を楽しみました

9月14日、人形劇団「ののはな」による人形劇「ちいちいにんにん」が第3会議室で上演され、小児病棟に入院するお子さんとその保護者約20人が楽しみました。

兵庫医科大学病院では、入院中の子どもたちを楽しんでもらうために、毎年人気のキャラクターたちに来訪してもらおうなどの企画をしています。今回は、長期入院・療養・通院をしている子どもたちにパントマイムやピエロ、人形劇や音楽などの文化・芸術作品を届ける催し「ホッとアートプレゼント2009」の一環として、子どもNPO・子ども劇場全国センター主催、NPO法人 兵庫県子ども文化振興協会の企画により実現しました。

「ちいちい」は「小さい」、「にんにん」は「人形」を意味し、カバやクマ、ブタ、カエルなど可愛い動物たちが登場するストーリーが披露され、エネルギーに溢れるさに満ちた人形劇の世界に子どもたちは引き込まれていました。

上演後、劇団員の納富俊郎さんと祥子さんご夫妻が、一人ひとりと言葉を交わしながら小さな人形をプレゼントしてくださいました。また、残念ながら病室を離れることができない子どもたちのために小児病棟を訪問され、子どもたちは可愛らしい人形の登場とプレゼントに大喜びでした。



初めてのインターンシップを行いました

平成22年3月卒業予定の看護学生及び就業経験のない既卒者を対象に、兵庫医科大学病院では初めてとなるインターンシップを行いました。第1回目(8月10日～12日)は9名、第2回目(8月17日～19日)は6名が参加しました。

3日間に亘り、施設見学や、内科系・外科系・ICU・CCU・NICU・産科・救命救急センター・手術室など希望する部署・病棟で看護体験をしていただきました。最終日には担当看護師や実習生による懇親会を行い、現場では十分に聞けなかったことなどをじっくり話せる場も設けられました。

参加者からは「大学病院は忙しくて大変そう、というイメージがあったが、明るく、生き生きと仕事をされていた」との声がありました。また、「医師や看護師、コメディカルがよく相談合っていた。チームの一員としてやりがいを持って働けそう」、「救命救急センターは緊迫した雰囲気緊張した。専門知識が重要だと感じた」、「それぞれの科で専門性と特色のある医療を行っていて、他県からも多くの患者さんが来院されると聞き、さすがだと思った」など、大学病院ならではの現場を体験し、また様々な科の看護師から話を聞くことで今後の進路を決める参考になったようです。

多くの参加者が「学校の後輩にも兵庫医科大学病院のインターンシップへの参加を勧めたい」と話していました。



丸山師長(前列左)と参加者たち

旧附属看護専門学校のホームカミングデー開催

平成21年9月19日、総合研修棟においてホームカミングデーが開催され、今年の卒業生38名が参加しました。卒業後半年を振り返ってのアンケートに回答した後、高橋前副学校長が挨拶をされ、昼食をはさみながら、一人ずつ近況報告を行いました。

近況報告は和やかな雰囲気の中で行われ、壁にぶつかりながらも懸命に乗り越えようとする意思が伝わってきました。参加者は、母校の同級生や先生方と語り合い互いに励ましあうことで勇気付けられ、仕事への思いを新たにしているようでした。



CCU病棟 松原 友子さん

心筋梗塞や心不全などの患者さんを見させていただいており、急変されることも多く、毎日が緊張の連続です。病院内で母校の卒業生を見かけると、頑張っているな、と勇気づけられます。亡くなる患者さんやそのご家族とどう接したらいいか、まだまだ分からないことも多くありますが、少しずつ成長していきたいと思っています。



松原さん(写真中央)

1号館10階西病棟 寺田 亜希絵さん 吉岡 南さん

整形外科の勤務で毎日忙しいですが、先輩方に支えていただきながら頑張っています。更衣室で皆に会えるのもとても嬉しいですね。(吉岡さん)

患者さんに名前を覚えてもらえるようになり、やりがいを持って元気に働いています。時には野球の阪神タイガースの話題で患者さんとコミュニケーションを取ったりしています。(寺田さん)



寺田さん(左) 吉岡さん(右)

第10回ささやま老人保健施設 納涼祭 開催

平成21年8月22日16時からささやま老人保健施設において、毎年恒例の納涼祭を開催しました。ご参加いただいた施設利用者とそのご家族、近隣の方々には、兵庫県立篠山産業高等学校ブラスバンド部の演奏やデカンショ節保存会のデカンショ踊り、屋台やゲームなどの催しを楽しんでいただきました。また、丹波篠山築城400年祭マスコットキャラクターの「まるいの」も登場し、納涼祭を盛り上げてくれました。職員家族、職員含め、総勢300名での開催となり、盛況な納涼祭となりました。



篠山産業高等学校ブラスバンド部演奏

「服部良一メドレー」に続き、「美空ひばりメドレー」が演奏されました。参加者たちは口ずさみ、声と手拍子の輪がどんどん広がりました。



デカンショ踊り

中央には「やぐら」を設置し、デカンショ節保存会の皆さんに踊りを披露していただきました。利用者や職員もやぐらを囲みデカンショ節にあわせて踊りました。



屋台

焼きそばや、アイスクリーム、コーヒーゼリー、わらびもち、リンゴきんとん、たい焼きなどが用意されました。ヨーヨー釣りも大人気でした。



ささやま探訪 第57回デカンショ祭

(写真:篠山病院 楊 鴻生 副院長)

兵庫県最大の民謡の祭典「第57回丹波篠山デカンショ祭」が8月15、16日に篠山城跡三の丸広場周辺(篠山市北新町)で開催されました。この祭りはデカンショ節を後世に伝えるため昭和28年に始まりました。丹波篠山築城400年を記念すべき今年は国内最大級の木造やぐら(高さ8.7メートル)が設置され、「ヨーイ、ヨーイ、デカンショー」のかけ声に合わせて、浴衣姿の踊り手たちがやぐらを囲み踊りに興じました。周辺では小中学生のパレードや、歌手のライブなども行われ、花火が打ち上げられました。普段は静かな装いを見せる城下町も、帰省した家族連れや観光客で大変賑やかな2日間となりました。



デカンショ節

江戸時代中期から篠山市域で歌われていた「みつ節」が変形したものと伝えられています。「みつ節」は、篠山地方にのみ歌われていた盆踊り唄で、節はほぼデカンショ節と同じですが、囃しことばが「デッコンショ」と囃されていました。封建時代の住民たちの唯一の娯楽として育てられ、歌い、踊りつづけられてきました。

特に明治以降は、篠山出身の若者たちがこの盆踊り唄を通じて、東京の学生たちと交流し、学生歌として全国的に広まったそうです。

「デカンショ」の由来

学生歌という経歴を持つことから、哲学者の「デカルト」「カント」「ショーペンハウエル」の略であるという説があります。他にも、丹波杜氏のふるさとという意味から「出稼ぎしよう」からきたという説、「デコンショ」という盆踊り唄からきたという説、「ドッコイショ」が転訛したとされる説などがあります。

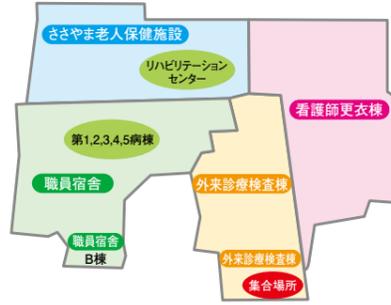


篠山病院からも沢山の教職員が参加し、踊りに興じました。

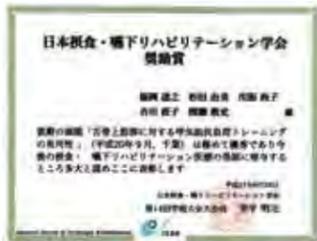
一斉清掃 実施

篠山キャンパスでは、自助努力によるキャンパス環境整備の一環として、毎年2回の清掃作業を行っています。今年度1回目を4月29日(昭和の日)、2回目を9月27日(日)(8時~11時30分)に実施しました。

当日は、職員ボランティア54名、天理教の社会奉仕として兵庫教区篠山支部の方々80名、計134名の参加がありました。作業はキャンパスを4ブロックに分けて、草刈り、庭木の剪定、溝掘り、ゴミ拾い等の清掃作業に汗を流しました。



第14回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 奨励賞 受賞



兵庫医科大学篠山病院 医療技術部 リハビリテーション室 言語聴覚士 | 福岡 達之

平成21年8月28日、名古屋国際会議場で開催された第15回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会において、昨年度私共の発表した演題「舌骨上筋群に対する呼吸抵抗負荷トレーニングの有用性」が奨励賞に選ばれ、その授賞式がありました。本研究では、摂食・嚥下障害に対する新しい訓練法として呼吸機器を用いた方法を紹介し、筋電図の結果からその有用性について報告致しました。今後も摂食・嚥下障害のある患者さんのリハビリテーションに貢献できる研究を目指し、より一層励んで参りたいと思います。

また、篠山病院では本年度より栄養サポートチーム(NST)が発足し、現在本格的な稼働に向けて準備が進められています。NST活動は多職種で行うチーム医療であり、摂食・嚥下障害の評価・訓練を担当する言語聴覚士もコアメンバーの一員として活躍できるよう、努力して参りたいと思います。



篠山病院整備工事の進捗状況(9月末現在)



ささやま老人保健施設屋上より

いよいよ地上階の躯体工事に入りました。9月中旬からは1階部分の工事が完了し、2階部分へと進められています。12月には4階部分の工事が完了する予定で、併せて仕上げ工事が始まります。台風等による被害もなく、順調に進捗しています。



学部長メッセージ

看護への情熱とプロ意識

看護学部 学部長 | 土居 洋子

看 護学部の教員の教育役割としては、看護への「情熱」と「プロ意識」を育て、看護実践能力をはぐくむことが重要です。看護学部には、輝く目をした100名の学生を毎年迎えています。1年次は「高校生から看護学部の学生へと羽化する過程」であり、基礎分野と専門基礎分野の授業科目と同時に、看護学の基盤作りと基礎を構築するための授業を行っています。入学式を終えた翌週から、基盤看護学の教員は授業を開始しており、私も「基礎看護学概論」2単位の授業を担当しています。本年も3期生を迎え、「基礎看護学方法論」と同時進行させながら、看護への興味を起し看護にコミットするプロセスを歩んできました。大方の学生は1年次の前期にあってもナイチンゲール、ヘンダーソン、ロイ、オレム等の看護論の入門レベルを理解する能力を持ち合わせていることに、少なからず驚き感心しています。授業形成評価を兼ねて、「大福帳(授業毎に学生が意見を記述し、教員との間で往復する記録紙)」を毎回読んでいますので、個々の声を聴くことができます。そして、時々連れ立って質問にやってくるので、4階研究室の前のオープンカンファレンスのコーナーは賑やかです。1年次の前期は、彼らの必要を優先して、きめ細やかに応じる必要があると思っています。

看 護の基本能力の開発は、言い換えれば「看護実践能力を身につけ、磨く」ことにあり、学部の4年間を費やす必要があります。「看護学教育の在り方に関する検討会委員会(2004)」によれば、看護実践能力の根幹は、「I ヒューマンケアの基本に関する実践能力、II 看護の計画的な展開能力、III 健康問題を持つ人への実践能力、IV ケア環境とチーム体制整備能力、V 実践の中で研鑽する基本能力」にあるとされています。この能力は一挙にして

成り立つはずはなく、1年次から4年次にかけて、日々の積み重ねそのものです。学生が自分は今、どこまで到達しているか自覚し、たゆまぬ努力ができるように、つまり自ら「努力目標をもつ方策(地図)」を作りだすことが、目下の課題であると認識しています。それは、シラバスにある「教育目標と行動目標」が、教員の作成したお題目ではなく、学生にとって生きたものとなるための方策である必要があります。

平 成23年度から大学院修士課程を開設する予定であり、修士論文課程と専門看護師課程の2つの課程を計画中であります。研究と同等に、医療現場で活躍する専門職者を育成することを目指し、優秀な専門職者を育成できる大学院を開設したいと考えております。看護職のプロは研究科で養成されます。専門看護師は、「卓越した実践能力」を有する看護職者であり、「実践・教育・相談・調整・研究・倫理」の6つの役割をもちます。わが国の専門看護師課程には、現在、がん看護・母性看護・慢性疾患看護・急性重症患者看護など10課程があり、日本看護系大学協議会の分科会で課程審査がなされます。課程修了者は、日本看護協会の審査を経て専門看護師の認定が行われています。筆者はこれまでに前職を通して、数名の慢性疾患看護師を輩出し、彼らは実践の現場で活躍しています。

近 い将来、専門看護師の機能にナースプラクティショナーの機能が追加され、ケアとキュアがミックスされる時代が来ることを希望しています。そして、修士課程に続いて博士課程を開設し、大学として完成することを願っています。専門看護師は卓越した実践能力を備えた上で、さらに博士課程に進学し自立して研究する能力をもって、理想的なプロとなるのです。

平成21年度 兵庫医療大学 オープンキャンパス 開催

兵庫医療大学をもっと知っていただくために、今年の夏も全5回のオープンキャンパスを開催しました。テーマは「ひと足お先に兵庫医療大学生!」(7月18日、8月8日、9日)と、「チーム医療を学ぼう!」(ポートアイランド4大学同時開催 8月22日、23日)で、総勢2,900名の受験希望者・保護者にご来場いただきました。

参加者には、教員や在学生とふれあいながら、キャンパスツアーをはじめ、全学部共通「チームビルディングゲーム」や、1日薬剤師体験、看護実習室での各種体験、理学療法の筋肉触診、作業療法の自助具使用体験など、兵庫医療大学ならではの体験講義・実習、入試個別相談といったイベントを通して、大学生活をイメージしていただけたと思います。

「教員や在学生の皆さんがとても明るく、この大学に通いたいという気持ちが強くなりました」「ここ(兵庫医療大学)でしか体験できないことが沢山あり、勉強になりました」「チームビルディングゲームが面白かった。チーム医療に興味を持ちました」と感想を寄せてくれました。

チーム医療を学ぼう

医療現場で重要視されているチーム医療。第1部ではゲーム形式で職種を越えた医療への意識と情報共有の大切さを実感してもらいました。「チームビルディングゲーム」は6人ずつのチームに分かれて、自分だけに与えられた情報を言葉で交換しあいながら一つの問題を解いていくゲーム。各自に配られた6枚のカードの情報は仲間に直接見せてはならず、必要な情報をタイミングよく出せるか、また引き出せるかがポイントです。参加者は、言葉だけで伝えていく作業に戸惑いながらも、徐々にコミュニケーションが取れてきた様でした。

第2部ではアニメーションなどを使って、チームビルディングゲームの狙いやチーム医療について分かりやすく説明。参加者たちはより理解を深めたようです。



ボランティアの学生が大活躍!

キャンパスツアーや各学部イベントでは、在学生たちが明るい笑顔と楽しい説明で参加者の心を惹きつけてくれました。



キャリアデザインセンターで将来について考える

実習施設として身近な兵庫医科大学病院の紹介、そして平成21年に発足した兵庫医科大学連携病院の会などについて知ってもらえるよう、映像やポスター・資料を用意。近年のキャリア支援プログラムの紹介や個別相談など、将来についての参考にしてもらいました。



薬学部

実際の病院薬局を模した臨床薬学研修センターでの「一日薬剤師体験」。好評の軟膏作りや、生薬当てクイズ、バイタル検査、無菌室や臨床現場でも活用されている分包機を使ってのビタミンC粉末の分包など、薬剤師の仕事の一部を体験してもらいました。



軟膏作り



ビタミンC粉末の分包

看護学部

各実習室で「感染予防テクニック/聴診器の使い方」(基礎看護)、「心臓マッサージ/片麻痺がある患者さんの援助」(成人看護)、「赤ちゃんを抱っこ/妊婦体験にチャレンジ/新生児バイタルサイン測定」(助産/母性・小児看護)、「50年後の自分を体験/あなたの食事カロリー大丈夫?/性格テスト」(精神・地域・在宅・老年看護)など、さまざまな体験してもらいました。



満席状態のガイダンス・模擬講義



感染予防のテクニックを学ぼう!



聴診器を使ってみよう

リハビリテーション学部

理学療法学科

理学療法士になるために必要な「筋肉触診」や、「運動能力チェック」「聴診器を使って心臓・呼吸の音を聴いてみよう」「車イスや義足などの物理療法」を体験してもらいました。



筋肉触診



義足体験

共通教育センター

人体模型、分子模型、重心(バランス)人形の展示、英語学習相談、3Dプラネタリウムの体験など、見て、触って、体験してもらいました。



人体模型



共通教育センター紹介展示

作業療法学科

自助具や車椅子、頭の体操やバランス訓練などを体験してもらいました。



自助具使用体験



ボードトレーナー



ポートアイランド4大学オープンキャンパス(8月22日、23日)では参加者にランチ券をプレゼント。食堂でランチを楽しんでいただきました。

| 就任挨拶



薬学部
教授 辻野 健
〈平成21年10月1日就任〉

このたび平成21年10月1日付で兵庫医療大学薬学部医療薬学科の教授に就任致しました。就任に際して関係の諸先生方には大変お世話になりましたことをここに篤く御礼申し上げます。私は1984年神戸大学医学部卒業とともに神戸大学第一内科に入局し、2000年に兵庫医科大学循環器内科(当時は第一内科)に移ってからずっと循環器内科、特に高血圧と心不全について臨床・教育・研究に携わってまいりました。そこではよき上司・同僚・後輩に恵まれ、充実した大学中心の生活を続けてまいりました。今回は同じ学校法人内の異動であり、知り

合いも多く、「配置転換」に近い感覚なのですが、仕事については医療系薬学部で薬剤師の教育に携わる、という全く新しい分野での挑戦であり、身の引き締まる思いです。薬学部教育は今大きな転換期の真っ只中です。これまでの調剤中心の薬剤師業務から、医療チームの一員として患者さんと直接接しながら責任を持って薬物療法を施行できる高度な能力を備えた薬剤師へと生まれ変わろうとしています。そのためには各疾病についてより深く理解するとともに、患者さんから病歴を聞き取り、バイタルサインの評価を行うなどの臨床的スキルが必要である、とのことで6年制になったわけです。これまで培った臨床と医学教育の経験を生かしてよき薬剤師の養成に全力を尽くす所存ですので、よろしくお願いたします。

| 兵庫医療大学ホームページ 「学長ブログ」好評連載中

松田学長の「学長ブログ」が平成21年2月3日にスタートし、9月30日現在20,900件のアクセスがあります。8ヶ月間で46テーマ、月6~7件のペースで掲載されています。テーマは多岐に亘り、地域連携活動と高齢者、心臓移植が再開されて10年、アジアの心臓移植、医師不足と医療崩壊、ナースプラクティショナー(NP)、入学式、6年生薬剤師教育、アウトブレイク、新型インフル

エンザ、学生講義、臓器移植法改正前夜、臓器移植改正法案成立、ベルリン再訪、日本の外科医がいなくなることを憂う会が発足、女子バスケットボール部大活躍!!、チーム医療とは、など。ぜひ皆さんも訪問してみてください。



| 医療人育成センターについて

医療人育成センター長 | 鈴木 敬一郎

現代の医療にはチーム医療が欠かせません。すなわち医師、看護師、薬剤師、リハビリテーション技師、臨床検査技師、臨床心理士、臨床工学士、カウンセラー、社会福祉士など数多くの医療人が集まり、患者さんと話し合いながら全員が力を合わせて患者さんの命を守り生活の質(QOL)の向上に取り組んでいます。そのために深い知識と確実な技術、ボーダレスな感覚と高い倫理観を持った人材を育成する必要があります。医療人育成センターは、職種間や卒前卒後の垣根を取り払い、ボーダレスに優れた医療人を育成することを目的に法人組織に設立されました。具体的には兵庫医科大学と兵庫医療大学間の連携、シミュレーター教育、スキルスラボの運営管理、卒前・卒業後教育の連携、コミュニケーション教育、早期臨床体験実習などの全科横断的カリキュラム、看護師をはじめとする初任者研修など、幅広い業務を行っています。



メンバーは看護師資格を有する3名の専任職員、事務職員、兼任の教職員で、兵庫医科大学の医学教育センター、兵庫医大病院の卒業臨床研修センター、兵庫医療大学の共通教育センターとも連携しています。チーム医療、シミュレーター、コミュニケーション、何でも結構ですので医療現場に関心のある方は気軽に総合研修棟(旧附属看護専門学校)に立ち寄ってください。発足間もなく未熟な組織ですが、皆様のご理解とご協力を得て発展させたいと思っております。

センター長:鈴木 敬一郎(兵庫医科大学 生化学 主任教授)
副センター長:末廣 謙(兵庫医療大学 共通教育センター教授)、山田 明美(看護部 次長)
兼務教員:成瀬 均(兵庫医科大学 医学教育学 准教授)
専任職員(看護師):利木 佐紀子(師長)、高橋 友子(師長)、比留間 ゆき乃(主任)
事務職員:平田 正人(参事)

| 省エネ・経費削減にご協力ください

西宮キャンパスではここ数年積極的に省エネルギー、経費削減に取り組んでいます。例えば、1号館熱源整備事業の実施、1・10号館換気系統空調機や1・2・5・8・9・10号館空調ポンプのインバータ制御導入、5号館夏休みのエレベータ1基休止、照明の間引きなどを行い、平成20年度には約900万円に相当する省エネ・経費削減を実現しました。

平成21年度は以下のような取り組み項目を設定し推進しております。全教職員が確実に実施いただきますようお願いいたします。

- 1 冬・夏季の空調省エネ設定を確実に守る (47円、長3:4円、長4:2円、カラー封筒の場合はそれぞれ約2倍の経費がかかります。)
- 2 不在時の空調停止と消灯を行う
- 3 パソコンの省電力設定を行う
- 4 直近階ではエレベータを使用せず、階段を使う(1~2階の昇降は階段で)
- 5 職員トイレの退室時の消灯(こまめに消しましょう)
- 6 休憩室・当直室等の退室時の消灯と空調停止(つけ置きは禁止です)
- 7 学内では使用済み封筒を利活用(新しい封筒は角1:12円、角2:7円、角1マチ付:57円、角2マチ付:47円)
- 8 グループウェアを積極的に活用し、紙での連絡通知文書を極力廃止(グループウェアを定期的に確認してください。)
- 9 コピーの削減、会議での配布資料を極力削減(グループウェア・学内ネットを活用)念のためのコピーは止める。会議資料の削減。もったいない精神を常に持つ。
- 10 事務用品を極力購入しない。気軽に事務用品を購入していませんか?本当に必要ですか?

これらの項目は一人ひとりの心がけ・行動の積み重ねが大きいので、率先して取り組んでいただきますようお願いいたします。

10号館 地下・1階廊下などでの照明の間引きの実施や昼間の明るい場所の消灯、3号館の空調ポンプの効率化運転など各種省エネ施策を実施しています。また、経費削減については今後、旅費交通費の見直しにも着手する予定があります。以上ご協力よろしくお願いいたします。

理事・評議員の異動

理事

再任 おおた としあき 太田 稔明 [平成21年11月1日付]

規程等の制定・改正 (規程等の全文は学内ネットに掲載)

No	項目	制定・改正の趣旨	制定・改正日
1	病院規程	中央放射線部に画像診断センター、放射線治療センター及びIVRセンターを設置するため改正。	平成21年9月29日
2	薬剤師レジデント取扱内規	薬剤師レジデントの安定的確保を目的とした総定員枠を定めるため改正。	平成21年9月15日
3	兵庫医科大学篠山病院における兵庫医療大学教員の研究・診療支援業務に関する内規	兵庫医療大学の教員が兵庫医科大学篠山病院の診療現場で研究・診療支援業務等の活動を行なえるよう制定。	平成21年9月15日
4	兵庫医科大学防火・防災管理規程	附属看護専門学校の開校に伴う改正。	平成21年9月1日
5	学校法人兵庫医科大学個人情報保護規程	個人情報の保護に関する法律に基づき、個人情報の取得、利用、開示、管理等についてより具体的な記述に改正。	平成21年10月1日
6	学校法人兵庫医科大学電子情報管理運用規程	電子媒体による個人情報の取り扱いに関する規程を個人情報保護規程から分離して制定。	平成21年10月1日
7	個人情報保護委員会規程	上記2規程の改正及び制定を受け改正。	平成21年10月1日
8	学校法人兵庫医科大学公的研究費管理・監査規程	兵庫医科大学及び兵庫医療大学における公的研究費の取り扱いに関して責任体制を明確にするともに適正な管理・運営を図るため制定。	平成21年10月1日
9	学校法人兵庫医科大学事務組織規程	財務部に財務課を新設し、予算編成方針立案、予算案の策定から、予算枠、執行内容等の管理、決算、予算執行検証等を一貫して財務部において行うための改正。	平成21年10月1日

兵庫医科大学病院 兵庫医科大学篠山病院 学校法人兵庫医科大学

兵庫医療大学のための募金 状況報告

「兵庫医療大学」のための募金活動を平成18年5月に開始して以来、これまでに教職員をはじめ、後援会(保護者)、緑樹会(卒業生)、名誉教授、退職者等(655名)は言うに及ばず協力医療機関や関連企業等を始めとする幅広い方々から、温かいお申し込みを賜り、誠に有り難く、厚くお礼申し上げます。

本学法人といたしましては、ご協力賜りました方々のご芳名を大学広報に掲載させていただき、感謝の意を表したいと存じ、下記のとおり報告させていただきます。

皆様からご寄付いただきました寄付金を兵庫医療大学の教育研究用施設整備等充実のために利用させていただくとともに、これからも全力で大学の合理化推進等により、必要資金確保に向けて自主的努力を重ねてまいります。加えてぜひとも関係各方面からの更なるご支援を仰ぎお力添えををいただきたく、引き続きご協力賜りますよう、よろしく申し上げます。

募金推進室
H18. 5. 2~21. 9. 30

区分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
申込	353件	733,672,347円	671件	219,700,000円	1,024件	953,372,347円
入金	348件	659,672,347円	671件	219,580,000円	1,019件	879,252,347円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧 H21.4.1~21.9.30

企業等法人 (5法人)

株式会社 光洋様	1,000,000円	(ご芳名のみ記載)
株式会社 エイチ・アイ様	70,000,000円	株式会社 日興商会様 匿名 2社

後援会

兵庫医科大学 後援会様	30,000,000円
教職員	(ご芳名のみ記載) 野口 光一様

学校法人兵庫医科大学兵医・萌えの会 法人会員・個人会員への特典について

平成21年4月1日、学校法人兵庫医科大学の中・長期的経営基盤を強化することを目的とした新たな基金(学校法人兵庫医科大学基金)を創設し、継続的な募金をお願いすることとなりました。この基金は、従来の特定施設の建設や改修を目的としたスポット的な募金ではなく、基金(ファンド)として運用し、得られた果実を教育・研究のために役立てる積立型の募金活動です。

この基金に永続的にご協力いただくために、下部組織として会員制の学校法人兵庫医科大学兵医・萌えの会を設け、その会員の方々から年会費(個人・特定公益増進法人、法人・受配者指定寄付金として税法上の優遇措置が受けられます。)のかたちで浄財を募り、基金の運営に寄与する形を取ることとなりました。

今回、ご寄付いただきました皆様方(会員入会者を対象)への感謝の一環として、次のとおり「特典」を設けさせていただきましたのでお知らせいたします。

大変厚かましいお願いとは存じますが、本法人の財政基盤強化のためにも本会を成功させたく、是非とも皆様方のお力添えのほどをお願いいたします。

～学校法人兵庫医科大学兵医・萌えの会 会員特典～

法人会員及び個人会員(以下「会員」という。)へのサービスの一環とし、本学病院の診療等にかかる特典を次のとおり定めました。

- 1.実施日 平成21年10月1日
- 2.対象者 ① 法人会員 10口(500,000円)以上の法人会員の正社員(正職員)
② 個人会員 10口(50,000円)以上の個人会員
- 3.有効期間 1年間(入会の日から1年間)
- 4.特典 次に掲げる項目について、原則として法人会員は15%相当の割引、個人会員は30%相当の割引として会員料金を設定いたしました。

(料金は税別、但し、PET/CT検査は税込)

	項目	料金	法人会員料金	個人会員料金
人間ドック	基本料金	47,000円	40,000円	33,000円
	オプション検査 ※1		15%相当の割引	30%相当の割引
PET検査	PET/CT検査	100,000円	85,000円	70,000円
室料差額 ※2	特室D	17,000円	14,000円	12,000円
	10号館個室	15,000円	12,000円	10,000円
	1号館個室	10,000円	8,500円	7,000円
	上記以外の総室の有料室		0円	0円
初診料 ※3	初診時特定療養費	2,500円	0円	0円

- ※1 オプション検査は、①マンモグラフィ検査、②子宮がん検診・細胞診検査・超音波検査、③脳MRI、④骨密度測定(DEXA法)、⑤PET/CT検査、⑥腫瘍マーカー等検査の6種類。(料金は、右表参照)
- ※2 室料差額は、1日についての料金。割引は、1入院あたり14日間を限度とし、入院予納金徴収の対象とはいたしません。
- ※3 初診料は、紹介状を持たない患者様については、初診時特定療養費として健康保険の一部負担金とは別に2,500円を自費にて徴収しておりますが、これを寄付金の口数に関わらず無料といたします。

人間ドック オプション検査料金

(料金は税別、但し、PET/CT検査は税込)

項目	料金	法人会員料金	個人会員料金
①マンモグラフィ検査	6,000円	5,100円	4,200円
②子宮がん検診・細胞診検査・超音波検査	9,000円	7,600円	6,300円
③脳MRI	21,000円	18,000円	15,000円
④骨密度測定(DEXA法)	4,000円	3,400円	2,800円
⑤PET/CT検査	100,000円	85,000円	70,000円
⑥※腫瘍マーカー等検査	7,200円	6,100円	5,000円

※腫瘍マーカー等検査の種類は、AFP、CEA、CA19-9、PSA(男性)、CA125(女性)、HCV抗体。

5.特典を受けるための手続き

- ① 法人会員に正社員(正職員)として勤務されている方が対象となりますので、必ず法人会員の正社員(正職員)の証明となる書類(本学所定の書類)と健康保険証を夫々の窓口で提示ねがいます。
- ② 個人会員は、必ず兵医・萌えの会会員証(会員カード)と健康保険証を夫々の窓口で提示ねがいます。

個人情報は厳重に管理して下さい!

平成20年12月から平成21年7月までに、患者さんの個人情報の紛失が4件ありました。個人情報が保存されたUSBメモリの院内での紛失が2件、パソコンや調査票などの院外での紛失が2件です。いずれも、現在までに情報の不正流用などの事実は確認されておりません。紛失判明後、該当される患者さんに速やかに事故報告を行い、自宅を訪問するなどして説明と謝罪を行いました。再発防止策を徹底させるために、講習会を実施し、個人情報保護遵守等に係る誓約書の提出を進めております。

個人情報の紛失は、患者さん、ご家族の皆様、社会の皆様にご心配をおかけすることになります。今後、法令遵守に基づき、個人情報の取り扱いについて厳重に管理するようお願いいたします。

個人情報の安全管理について

情報センター

近年、個人情報の電子データ化に伴い容易にデータを取り出しやすくなったことや、コンピュータウイルスなどの影響により、個人情報の紛失・漏洩に至るケースが増加しています。こうした個人情報の紛失・漏洩は、マスコミへの対応や事故調査といった対応はもとより、場合によっては訴訟による損害賠償責任に問われかねず、社会的信用を失うことにもつながります。個人情報の紛失・漏洩事故は一度発生すると、元の状態に戻すことができません。何より事故を未然に防ぎ、起きないようにすることが大切です。

また、2005年4月より全面施行された個人情報保護法では、個人情報の適切な取り扱いを確保し、個人の権利利益を保護することが求められています。個人情報の利用や第三者への提供には本人の同意が必要であり、漏洩、滅失、毀損しないように措置を講じなくてはならないとされています。

個人情報を扱う教員、職員、その他本学の業務に従事する者は、個人情報が不正に利用されたり、紛失・漏洩したりすることのないよう、厳重に管理しなければなりません。

個人情報の紛失・漏洩に関するケースには、大きく以下の3つのパターンがあります。各部署においては次に示す対策をとり、個人情報の安全管理に十分な配慮して下さい。

1 ノートパソコンや記録メディアの管理・持ち運びによる紛失、盗難

最近のノートパソコンや記録メディア(USBメモリ、SDカード等)は小型・大容量化が進み、より手軽にデータを持ち運ぶことが可能になりましたが、その反面、紛失や盗難による情報漏洩が相次いでいます。一般的には以下の対策を心がける必要があります。

- ①ノートパソコンや記録メディアの職場への持ち込み・持ち出しの禁止・使用制限
- ②台帳管理等による記録メディアの利用者・利用目的の明確化
- ③万が一の紛失や盗難に備えた、暗号化・指紋認証といったセキュリティ機能付きUSBメモリなどの利用



2 コンピュータウイルスの感染

コンピュータウイルスに感染することで、パソコン内部のデータ(フォルダ)をネットワーク(インターネット)上に知らない間に曝け出すことにより、個人情報漏洩に至るケースが増えています。特にファイル交換ソフト(Winny、Shareなど)を、リスクを熟知せず安易に職場PCなどにインストールしてしまい、パソコンがウイルスに感染し流出事故に至るケース(もしくは感染している自宅PCに個人情報データを持ち込む等)が後を絶ちません。一般的には以下の対策を心がける必要があります。

- ①最新のウイルス対策、不具合修正が施されたパソコンを利用する
- ②業務用途のパソコンに不要なソフト(特にファイル共有ソフト)は絶対にインストールしない
- ③個人情報が格納されたパソコンでの、業務外の電子メールやインターネットの使用禁止、フィルタリングソフトの導入

3 第三者の不正な端末の利用

パスワード等を用いた本人認証等により、悪意のある第三者の利用を防止する対策も必要です。一般的には以下の対策を心がける必要があります。

- ①起動しても他人に覗かれないための、パソコンのBIOSパスワード設定やログイン認証のセキュリティ強化
- ②データ(ファイル)に対するパスワード設定や暗号化により、第三者からのデータ参照を抑制
- ③設定したパスワードの定期的な変更
- ④パスワードなどの他人への伝達、パスワードを記載した付箋を貼るなどの行為の禁止
- ⑤作業終了時のログアウトの徹底

なお、個人情報の取り扱いについては「学校法人兵庫医科大学個人情報規程」並びに「同電子情報管理運用規程」を定めていますので、参考して下さい。

■個人情報保護に関する講習会

平成21年8月3日に篠山キャンパスの全教職員を対象に兵庫医科大学 医療情報学の宮本 正喜主任教授による「個人情報保護に関する講習会」を実施しました。今後、西宮、神戸キャンパスでの実施を考えています。

■機密事項保持誓約書の提出

平成21年9月より順次、全教職員等に対して「機密事項保持誓約書」の提出を義務付け、情報管理の意識付けを徹底します。ご協力よろしくお願いいたします。



篠山キャンパスでの個人情報保護に関する講習会



機密事項保持誓約書

～本学における個人情報紛失事例～

発生月	概要	紛失内容
平成20年12月	大学院生が学会発表データ作成のため、個人情報をノートパソコンに保存。車上荒らしにあい、ノートパソコンを紛失。	300件(氏名、患者ID、生年月日、年齢、性別、採血結果データ ※住所、電話番号は含まれず)
平成20年12月	製薬株式会社の医薬情報担当者の営業車両が盗難に遭い、個人が特定できる資料を紛失。	10件(氏名、生年月日、年齢、性別、血液検査データ、副作用問診票 ※住所、電話番号は含まれず)
平成21年 6月	篠山病院のナースステーション内で、個人情報を保存したUSBメモリを紛失。	40件(氏名、性別、生年月日、年齢、住所、電話番号、病状、介護の状況)
平成21年 7月	卒後臨床研修センター内で、指導医に提出するための情報を保存したUSBメモリを紛失。	3件(氏名、患者ID、生年月日、症例 ※住所、電話番号は含まれず)

卒業生紹介



第1期生
服部 益治さん
兵庫医科大学 小児科学講座 教授

近況

日進月歩の医療・医学はグローバルな視野での活動が求められます。世界に比べ大きく遅れを取り、WHO(世界保健機関)からも注意勧告を受けています日本の予防医学分野の重要課題である予防接種および傷害予防の推進活動を国内外で展開しています。小児科医として将来の地球を託す「夢大きく心豊かな子ども達」の育成に密に関わりたいです。また難治性疾患の解明研究を進めており、その成果を院内での治療とともに発症予防にも反映するように努めています。

学生時代

開学時に着任された恩師の先生方から新設の本学の発展とそのミッションを託された一期生の我々に対し日々熱意一杯の教育を受けました。次世代の良医を輩出するための意気込みは今も忘れられないものであり、現在教育する立場になり改めてその熱意を思い出し、恩師に負けぬように熱き思いの教育を行っているところです。

卒業後に学んだこと

医療は医学という理系と生命倫理学という文系的な2要素の上にバランスよく存在することが重要と学生時代は頭でイメージしていましたが、小児科医として働き、子ども達および保護者に2要素の重要性を体験的に教えて頂きました。学内・院内で、また地方の病院勤務で他科のすばらしい先生方と交流すること

略歴

- 昭和53年 3月 兵庫医科大学卒業。医師免許取得
- 昭和57年 3月 兵庫医科大学大学院医学研究科修了。医学博士受領
- 昭和57年 7月 重井医学研究所付属病院院長
- 昭和63年 2月 兵庫医科大学小児科学講座講師
- 平成 2年 2月 米国ミネソタ州立大学留学
- 平成 8年11月 兵庫医科大学小児科学講座助教授
- 平成12年 6月 兵庫医科大学小児科学講座臨床教授

により医師の様々な生き様を目の辺りにしました。留学先の米国では、北米の医師・研究者にとどまらず、欧州、アジアの様々な国々から留学の人達との交流により、グローバルな意識を高めることができました。その関連により国内外に多数の恩師、友人がいるのは宝であり、日頃の励み、勇気にも繋がっています。

今後の兵庫医科大学に期待すること

知力のみならず「心力」を持ち備えた学生を迎えうる入試方式を再検討してほしいです。そして本学の建学の精神である「良医」を多数輩出できればと思います。国・文科省の考えもありますが、可能ならば外国のような4年制の他大学を卒業した人を入学させ、4年間で医師として育てる教育機関として存在感を示されればと思っています。大学では他大学や施設の交流を盛んに、また大学病院では社会に開かれたシステムをさらに進め、ボランティアはじめ様々な住民の参加のもと、さらなる発展を願っています。

学生に向けてのメッセージ

社会のニーズに応えるためにも価値観の異なる方々が求められることを認識するとともに、それぞれの立場を尊重する姿勢が求められる職業であることを忘れないでほしいです。その上で、医師は健康を損なわれた方を救うことはもちろんですが、健康を維持するための活動にも大に関わる良医を目指して下さい。

略歴

- 昭和58年 3月 兵庫医科大学卒業
- 昭和58年 5月 兵庫医科大学病院整形外科入局
- 平成 5年 7月 クリーブランドクリニック留学
- 平成 8年 7月 兵庫医科大学整形外科学講座助手
- 平成15年 1月 兵庫医科大学整形外科学講座講師
- 平成18年 5月 兵庫医科大学整形外科学講座助教授

患者さんの「生活の質」を向上させるために、運動器疾患の治療が如何に大切かを知りました。特に、腫瘍によって侵され失った運動器の機能を回復させることは困難です。この困難さに挑戦することの喜びを学びました。

今後の兵庫医科大学に期待すること

地域の医療を支える中核的な施設として、医療、教育、研究すべてがバランスよく行えることが重要と考えています。特に、教育は未来の医療を担う優れた人材を育成するために最重要です。教育を重視して、優れた人材を輩出できる大学になることを期待します。

学生に向けてのメッセージ

皆様、頑張っておられますか?近年では、野球を中心に多くのスポーツ選手が世界に羽ばたき、我々に夢を与えてくれています。このように世界に通用するスポーツ選手や物作りが目目されている中、医療でも同様に世界に通用する技術と研究成果が求められています。世界レベルの医療を目指して、学生時代から英語力などの基礎固めを頑張ってください。



第6期生
越谷 博之さん
兵庫医科大学 整形外科学講座 准教授

近況

運動器疾患を扱う整形外科の中、骨・軟部腫瘍学を専門にしています。一般の運動器疾患と異なり、悪性腫瘍と言う生命を脅かす疾患も扱っています。特徴は、骨肉腫に代表されるように若い患者さん多いことで、ドラマの題材としてもよく取り上げられます。治療では、切断が第一選択のように思われがちですが、我々は切断をしないで患肢を温存する手術を積極的に行っています。さらに、小さい創でも腫瘍切除を完全に行うため、内視鏡を用いて完全に腫瘍切除する手技の確立に着手しています。この低侵襲手術によって術後疼痛の軽減と、患者さんの早期社会復帰に貢献しようと頑張っています。

学生時代

夏休みで海外を放浪していたときに感じたことは、自分の英語力の貧弱さでした。これにショックを受けて、英語を少しだけ独学しました。これが、今の自分の助けになるとは、思ってもみませんでした。

卒業後に学んだこと

スポーツや先輩が好きで、なんとなく整形外科教室に入局しました。

職場

REPORT
レポート



基礎研究の面白さは予測を超えた現象との出会いにある

兵庫医科大学 薬理学

主任教授 竹村 基彦さん

「予測を超えた現象との出会い」

薬理学は、薬物が作用する生体分子について研究する学問です。当講座の主な研究テーマは「薬物依存の形成メカニズム」、「ミクログリア細胞の活性化と細胞死」、「ラット副腎髄質褐色細胞腫細胞 PC12 の細胞死」。メンバーには薬学、農学の出身者が在籍し、主研究に沿って各自の研究テーマを展開させています。特に若手研究者には主体的に臨んでもらうようになっています。

研究は1つのテーマで3、4年を費やします。小さな段階での発見とその論文発表を繰り返しながら、次なるアイデアを練っていきます。通常は仮説から結果を導きだす流れで研究を進めますが、時に「予測していなかったこと」が起こります。そこから「なぜそういうことが起こるのか」を解き明かしていくのですが、その「予測を超えた現象」に出会った時、研究者として非常にワクワクします。基礎研究をしていて最も面白いと思う瞬間かもしれません。

基礎医学研究に進むきっかけ

私は医学生時代に受講した講義がきっかけで薬理学への関心を持ち、約3ヶ月間の基礎講座配属の中で「自分には基礎研究が向いている」と思いました。研修医として約1年間臨床医を経験した後、大学院に進学しました。以来、薬理学講座で研究を続けています。本学でも平成20年から「研究マインドの醸成」を目的とした第3学年次での基礎医学講座への配属(3週間)を行っています。この体験が基礎医学研究に関心を持つきっかけになると嬉しいですね。

「難しい」学問から、末永く付き合っていける学問へ

授業では、第2学年次「生体と薬物」と第4学年次「臨床薬理学並びに薬剤副作用・薬害」を担当。前者で薬物・毒物の生体への作用を理解し、的確な薬物療法を行うための基本的な考え方を学び、後者で診療に必要な薬物治療の基本(薬理作用、副作用)と薬剤副作用・薬害について学ぶことを目標としています。

残念ながら、「薬理学は難しい」というイメージが学生にはあるようです。現在、日本で承認されている薬は約4万個あり、在学中に少なくともそのうち200個ほどの薬について学んでおく必要があります。薬が作用する範囲は精神から臓器、皮膚に至るまで広く、また、使用禁止や新薬承認、似た成分のものが次々と開発されるなど、状況は少しずつ変わります。覚えることが山ほどありますが、学生には工夫しながら着実に学んでほしい。教科書は研修医になっても使えることを目指して作っていますので、末永く「薬理学」と付き合っていってほしいですね。

薬物乱用について

近年、薬物乱用が多様化し、一般の学生や社会人にまで薬物汚染が広がっています。本学では第2学年次の「薬物依存」の講義を行う中で、薬物乱用防止啓発をしています。今年、全国の大学で大麻等の乱用が多発したことを受け、5月2日に本学の全学生に対して「薬物乱用防止に係る特別講義(薬理学・法医学・精神科神経科学)」が行われ、「大麻の薬理作用」の講義を担当しました。覚せい剤や大麻などの薬物が身体に及ぼす影響や薬物依存の怖さについて、本学の学生は十分に理解してくれていると確信しています。





生涯を通じて患者さんをサポートしたい

兵庫医科大学病院 看護部 10-8病棟 看護師 藤井 洋子主任 近藤 春奈さん 窪岡 由佑子さん(左から)

10-8病棟は肝胆膵科、糖尿病科、内分泌・代謝科の内科病棟で、主に肝臓がんや肝硬変、肝炎などの肝疾患、糖尿病、痛風や甲状腺疾患、副腎機能疾患など、慢性期からターミナル期までの患者さんが入院されています。インターフェロン療法を始めとする多様な検査や治療が行われており、患者さんごとのオーダーメイドケアを心がけています。

糖尿病看護認定看護師として (窪岡 由佑子さん)

入社9年目の今は、リーダー業務を中心に、糖尿病看護認定看護師として入院患者さんへの糖尿病療養指導や、週に1度の外来での指導も行っています。糖尿病療養指導は、疾患の発症・悪化を防ぐと共に、患者さんが健やかに生活できるよう、生涯続くセルフケアや療養生活を支援するためのものです。外来指導では診察の待ち時間を利用して行うので、患者さんの生活背景や血糖値などの検査データをもとに迅速な判断が求められます。難しくはありますがとても勉強になります。昨年、認定看護師資格取得のために日本看護協会研修学校で約半年間の研修を受けました。共に学んだ仲間とは情報交換や相談しあう関係が続いています。院内にも院外にも頼れる先輩、仲間がいてとても心強いですよ。これからも皆さんに支えてもらいながら、医師やコメディカルと連携して糖尿病看護の質の向上を目指していきたいと思っています。

この仕事をしていてやりがいを感じるのは、患者さんとのコミュニケーションを通して、お互いがいい刺激を与えあえる関係になった時。以前は患者さんから「ありがとう」と言われることがとても嬉しく力になっていましたが、今では逆に患者さんに対して「ありがとう」という気持ちでいっぱいです。

患者さんに安心してもらえる看護を目指して (近藤 春奈さん)

今年、附属看護専門学校の最後の卒業生として入社しました。配属されて間もない頃は、多忙な業務と患者さんを前にしての責任の重さ、学生

時代とはかけ離れた環境に「リアリティショック」を経験しましたが、先輩方の指導と励ましに支えられてきました。また、同期や寮の仲間の存在も大きく、いつも元気をもらっています。仕事をする上で心がけているのは、患者さんの前では笑顔を決してやさないこと。忙しい時や失敗をしてしまった時はつい笑顔が忘れがちになってしまうので、患者さんに接する前には深呼吸をして気持ちを切り替えています。

先日、糖尿病療養指導の一つである「フットケア」を退院後も続けられた患者さんから「足の状態が良くなってきた」という話を聞きました。私たち看護師のサポートが患者さんの症状改善や合併症予防につながるのだと、やる気が湧きました。今はまだ日々の業務を行うことで精一杯ですが、患者さんに「ありがとう」と言っていたくともあり、この仕事を頑張っていこう！という原動力に。いつか患者さんに「あなたに看護してもらったら安心」と言ってもらえるようになりたいです。



育児=育自「教育も同じです」

兵庫医療大学 看護学部 家族支援看護学 末原 紀美代教授(右) 藤井 真理子教授(左)

どのようなことを学ぶ分野でしょうか？

末原: 本学では母性看護学・小児看護学・助産学を主な教育・研究分野としており、現在7名の教員が所属しています。子どもや親、家族に対して、看護学の視点から高度なケアを提供するための方法や技術を学ぶ領域です。家族や命を育み人との出会いを大切に、未来のある分野です。“家族”は、夫と妻の2人から始まり、子育て、つれあいや自分の死と、成長・発展・衰退の途を歩みます。それぞれが直面する環境や課題に対応できるように支援することが目的です。「お父さんの産後うつ病」などユニークな研究テーマをもつ教員もおり、色々な視点でどんどん挑戦していきたいと思っています。

「育児」は「育自」とも言い、育児を通して親も子どもに育てられます。教育も同じで、教員も学生に教えられ、育ちます。人と関わることが好きな教員が集結しており、学生を受け入れる態勢は万全です。

学生と接する上で特に意識していることは？

藤井: 男性と女性では、家族における役割が期待されたものと異なることがあり、その結果、家族関係が上手くいかない場合もあります。そこで「家族全体を見ていこう」という視点から家族支援看護学は成り立っています。これからの時代は男女の枠を越えて、「一人の人間としての権利」を尊重することが大切です。そして、大人だけでなく、子どもにも人権があるということも教えていきたい。自分の人権が守られた経験のある人は、他人の人権も大切にします。学生たちには「あなたの人権を尊重しているよ」と実感してもらえようように接しています。

末原: 1年次の医療科学概論や看護論、アドバイザーグループ制などで、人権を含めマナーや常識なども教えるようにしています。メールのマナーなど最初はひどいものでしたが、だんだん良くなりましたよ(笑)。キャンパス内ですれ違う学生さんには、学部を問わず誰でも、声をかけずにはられません。

西村: 学生と接していると、「この子が結婚して家族を作り親になって行くのだなあ」と先を想像します。

石原: “いい看護師”になる前に、「人として一人前になってほしい」という気持ちが強いですね。

勝田: 時には親や兄妹のような気持ちで学生の心配をしてしまうことも。アットホー

ムなところもこの特徴ですね。

1年生の時点で兵庫医科大学病院での早期臨床体験実習を開始していますが、今年は9月に全学部1年生と兵庫医科大学の医学部1年生がチュートリアル形式でチーム医療を学ぶ連携講座が初めて行われました。

藤井: 「コミュニケーション技術を身につける」は本学の教育の柱の一つでもあり、とてもいい経験になったと思います。人に何かを伝えるには自身の専門領域を徹底的に学んでおくことが大切。基礎をしっかりと身に付けていって欲しいですね。

飯尾: 共に学ぶという団結力が後々、精神的な力にもなります。早い段階で他学部の学生と交流し、多方面からの視座を持つことが、将来につながります。

学生にはどのように成長してほしいですか？

末原: 一人ひとりの患者さんにとって最良のケアを考え、医師に意見を伝えられる看護師になってもらいたいですね。そのためには、スタンダードケアができなければいけません。スタンダードケアとは、その時に必要とされる最適なケアのこと。常に、今何が求められているのかを考える向上心、成長し続ける姿勢を持つことが重要です。

藤井: ただ指示を待つのではなく、自ら行動する自立した人間になって欲しい。本学の4年間を終えて卒業するまでには、独り立ちできるように教育しています。本学の学生も入学してから着実に成長していますよ。また、患者さんやご家族の生活背景を考えたサポートができるようになるためにも、自身の普段の生活を大切に色々なことを吸収していただきたいですね。



左から藤田助教、飯尾助教、末原教授、藤井教授、石原講師、西村講師、勝田助教